

兵庫県における有機農業推進の取り組み ～コウノトリが教えてくれたもの～



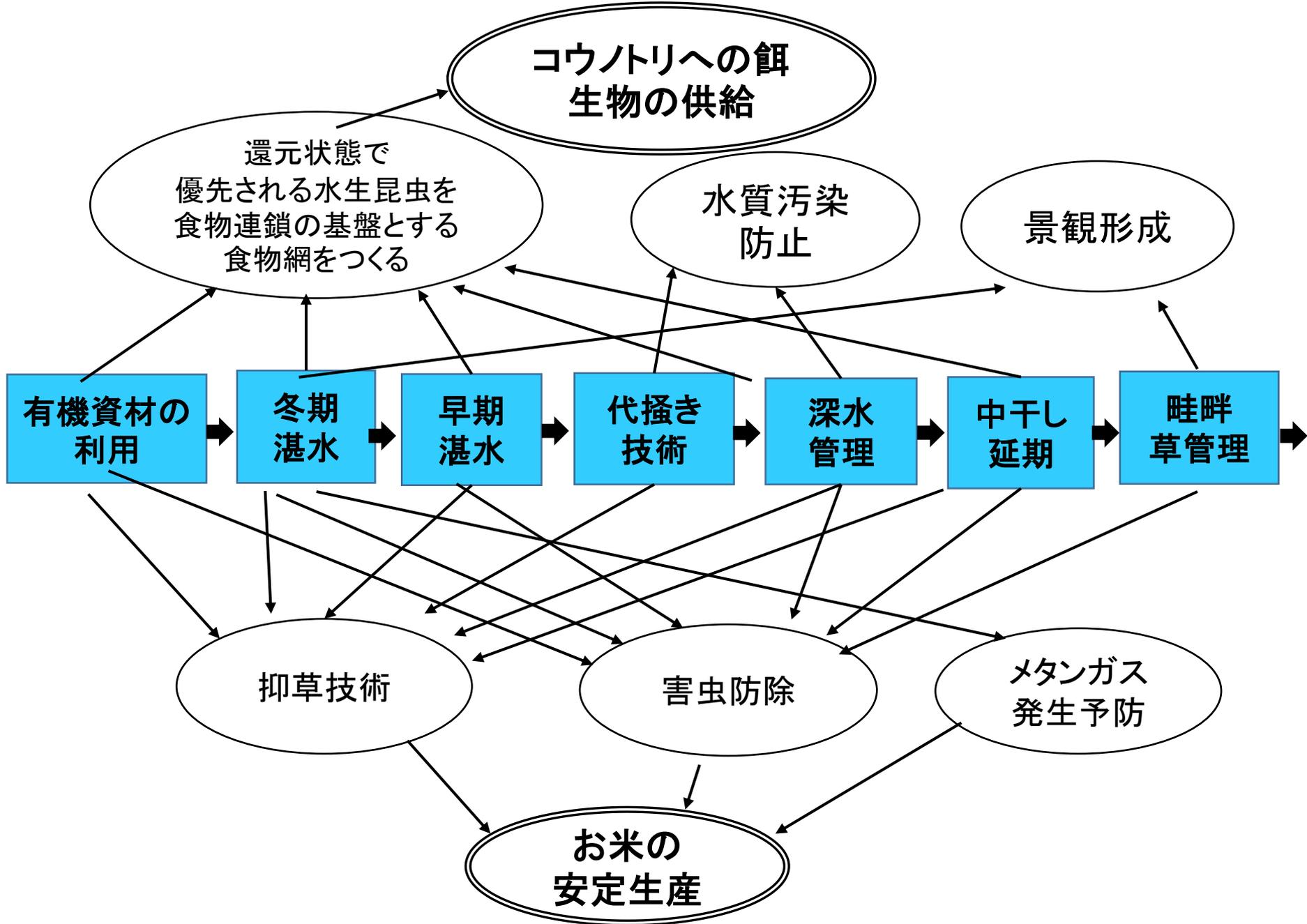
兵庫農漁村社会研究所 理事
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 客員准教授
博士(教育学) 西村いつき

有機農業推進に関する現場からの提言

- ① **風土に根ざした有機農業技術の確立ができる公的試験研究の充実**
 - 国や道府県の研究機関がリスクの伴う研究を担う
 - 公的機関の有機農業指導体制を整備する
- ② **エシカル消費者の育成**
 - エシカルな消費行動が有機農業者を育てる
- ③ **価格政策・所得政策**
 - 諸外国では有機農業者所得補償や認証経費補助は当たり前
- ④ **指導者の養成**
 - 有機農業を学びたい人は多い、しかし、指導者がいない
- ⑤ **学びの場づくり(学校教育、成人教育)**
 - 韓国では有機農業が大学の必須科目になっている。日本では農業高校や大学で有機農業を学べるところはほとんどない
 - アメリカやフランスでは有機農業は無料で学べる。日本では有料

有機野菜産地「おおや高原」





目標(夢)をイメージ化し目標達成の道筋を プロセスデザインする

- ・技術の確立
- ・農家の理解を得るためのデータ集め

2005年までに新たな農法を確立し
コウノリの餌場を確保する

到達目標

アンケート

食味・土壌診断

病害虫・生育・生き物調査

消費者動向調査

各種研修会の開催

販路開拓

実証圃設置

ひょうご安心ブランドの推進

ワークショップ

新規施策の提案・執行

- ・農産物の有利販売のためのしくみづくり
- ・住民の意識の醸成

2002年
アクションプログラム

コウノトリ育む農法の確立と普及

コウノトリの絶滅要因を真摯に受止め慣行農法を見直す

農薬や化学肥料の削減

生き物を増やす工夫

虫の勉強

悪い虫・ただの虫・
よい虫を見分ける

生態系の大切さ

病気の勉強

適正な施肥量
植付け密度を知る

土作りの大切さ

生き物の勉強

微生物や水生生物
の働きを知る

水管理の大切さ

雑草の勉強

雑草の特性
を知る

抑草技術の習得

水田環境の
勉強

魚道・逃げ場の
設置

各種実証圃の設置と試験結果の検証

自分達が実践できる体系→定義や要件を整理

JAに働きかけて生産者の組織化

コウノトリ育むお米生産部会の結成

コウノトリ育む農法と慣行栽培の違い

コウノトリ育む農法

有機物が微生物の餌になり生態系の底辺を支える

田んぼの多様な生き物が害虫を制御する
還元状態や酸化状態で働く、窒素固定菌をうまく利用する

堆肥等
有機物
散布

有機
肥料
散布

米糠
糖蜜
等
散布

有機
肥料
散布

代掻き
田植え

稲刈り

冬期湛水

早期湛水

深水管理

中干し延期

夏水管理

慣行栽培

除草剤

化学
肥料
散布

農薬
散布

除草剤

除草剤

農薬
散布

化学
肥料
散布

農薬
散布

農薬
散布

代掻き
田植え

稲刈り

浅水管理

中干し

間断灌水

安全な食べ物を作るのも守るも 私たちの食べ方で決まる

＜コウノトリからのメッセージ…＞

皆がご飯を食べれば、お米が沢山作れる

お米が沢山作れば、田んぼが蘇る

皆が安全なお米をほしがれば、田んぼで農薬を使わなくなる

田んぼで農薬を使わなくなれば、コウノトリが蘇る

先人の教え

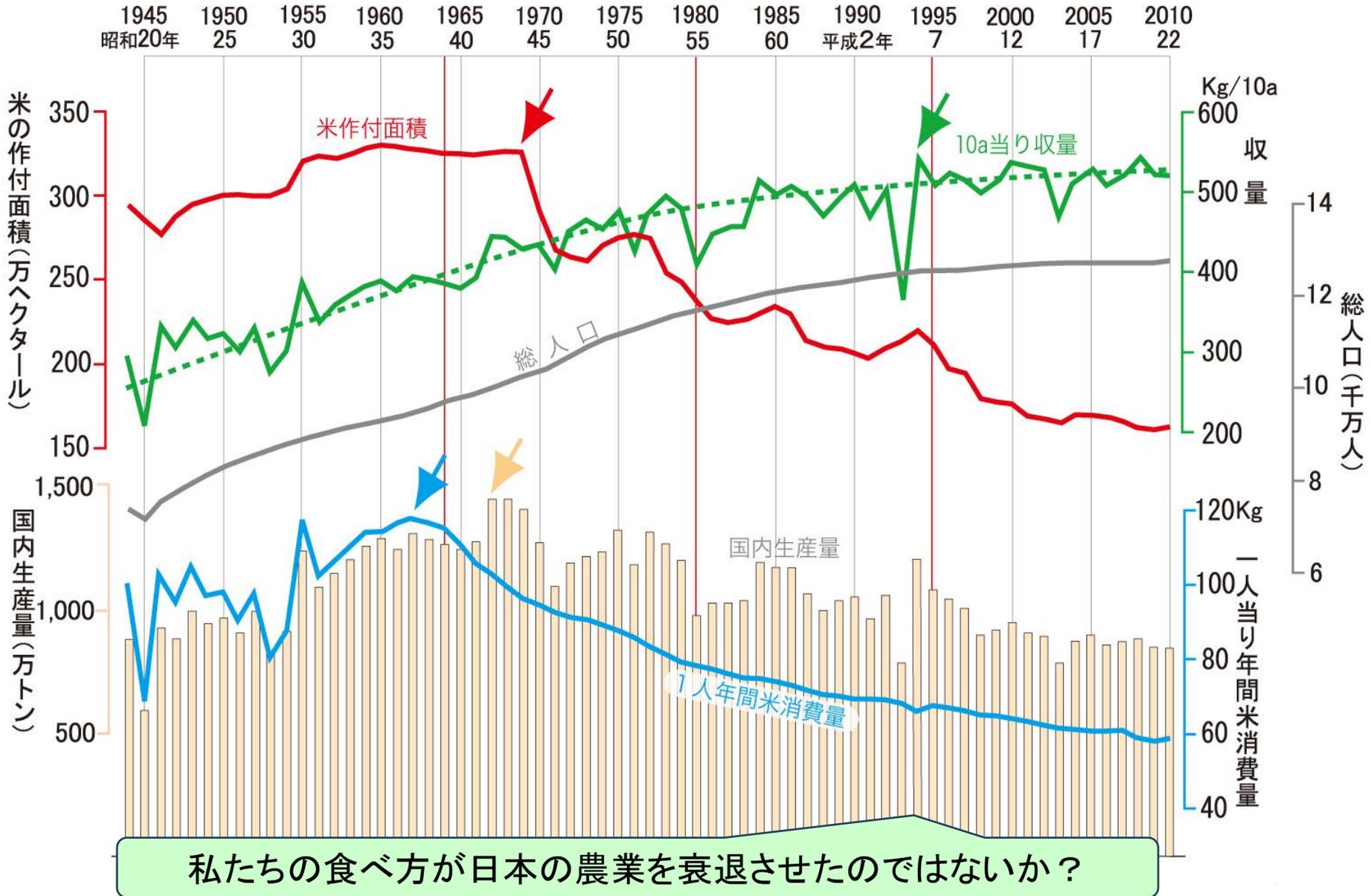
環境が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば心が変わる。心が変われば運命が変わる。



私たちの食べ方が自国の農業の衰退に大きく影響する

日本の米生産と消費の状況



次の世代を担う子供たちと共に学ぶ

講話とワークショップ
で育む農法を学ぶ



農家から育む農法
を学ぶ



コウノトリ育む農法から
命と命の繋がりによって生かされて
いることを学ぶ



魚道の効果を知って
魚道を設置

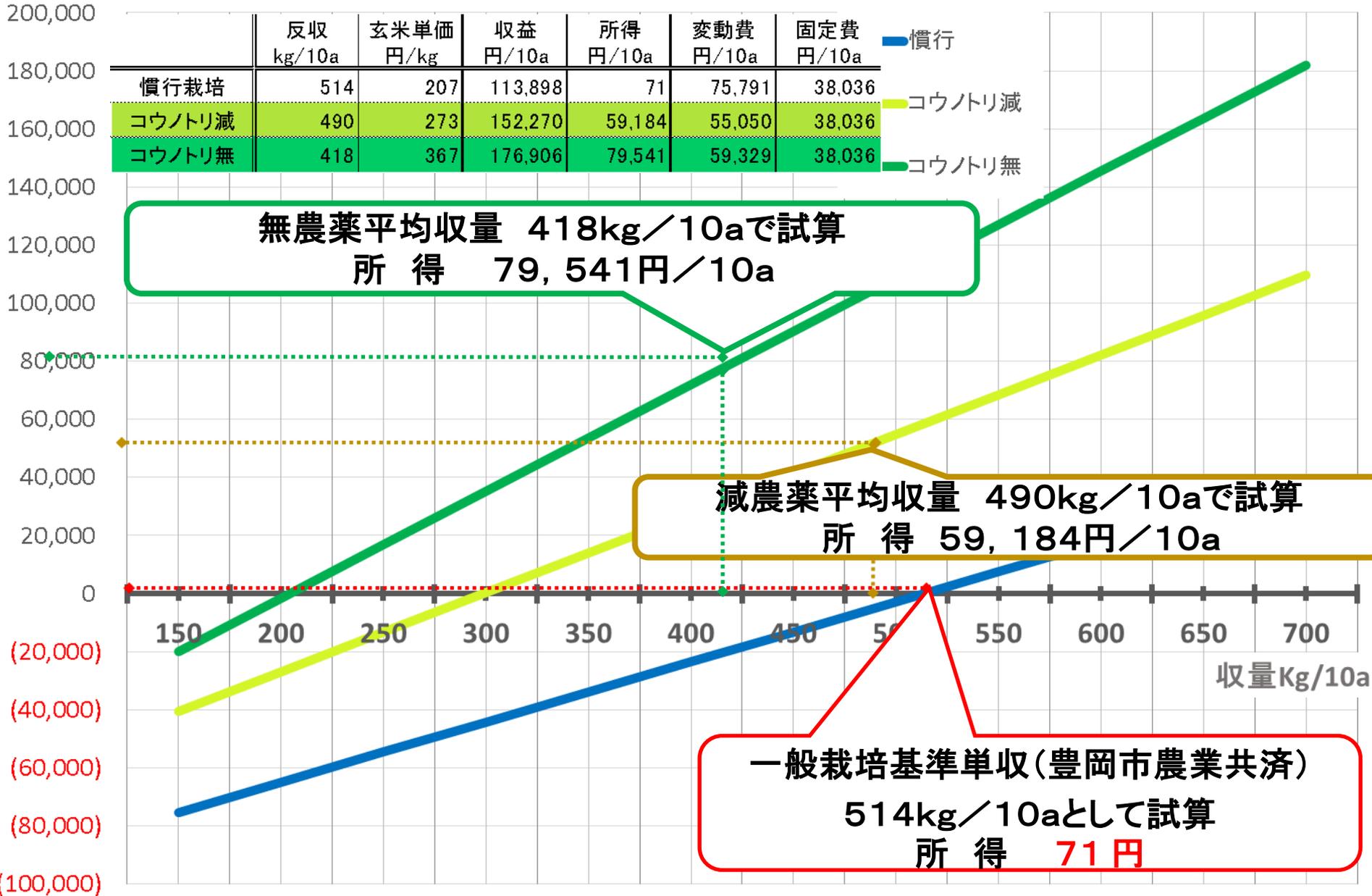


フォーラムで育む農法
の大切さを訴える

子供たちの提案が給食を変える



所得(円/10a) 平成26年産米 コウノトリ育むお米収量と所得



コウノトリの野生復帰なんて出来ない！
化学肥料や農薬を使わない農業なんて出来ない！
誤解や偏見が強く取組み当初から言われてきた

- ↓
- ・ 化学肥料を使わないことで**地球温暖化防止に貢献する。**
 - ・ 農薬を使わないことで**生物多様性が豊富になり生産性向上と生態系保全が両立すること。**
 - ・ 消費者の理解が得られれば**再生産可能な農業ができる**

**行政が
すべきこと
は明確**

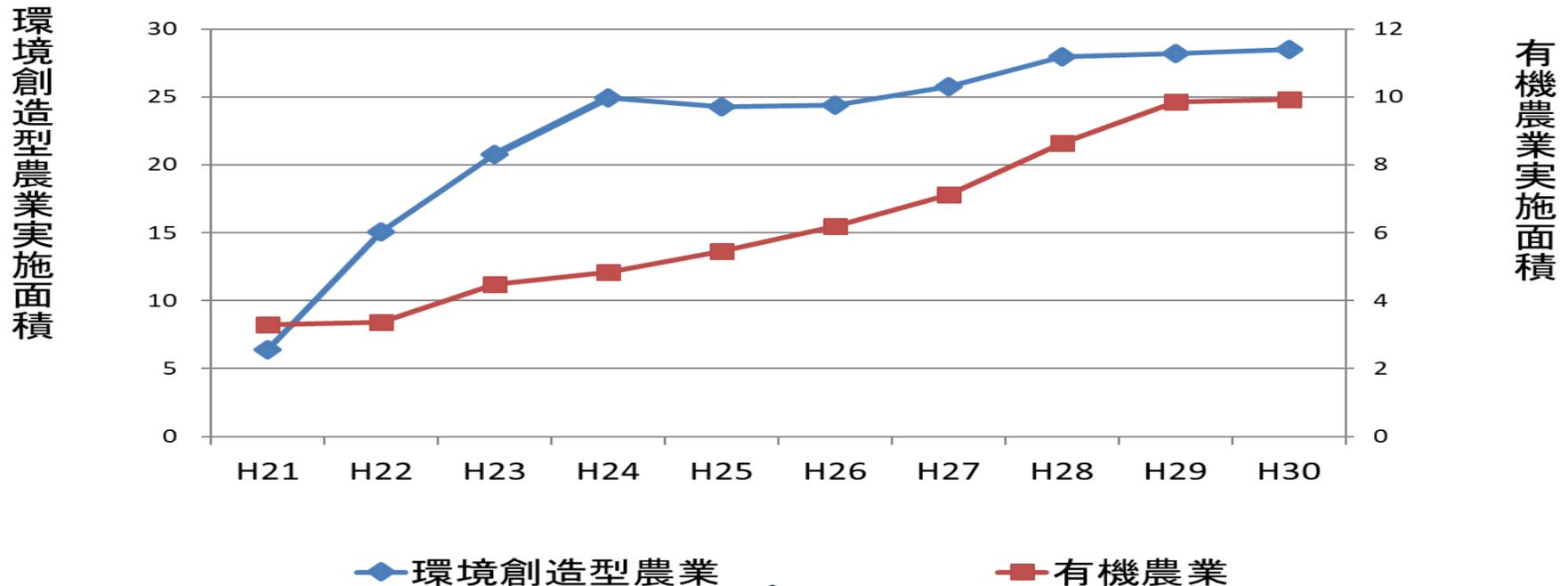
- ・ **高い目標設定**
- ・ **地域にあった技術の確立** (高リスクは公的機関が担う) ※軌道に乗れば民間にバトンタッチ
- ・ **指導者の育成**
- ・ **関係機関の連携**
- ・ **消費者の理解醸成(価格政策)**

有機農業をする意義、有機農産物を買う支える意義の理解が必要
道徳なき経済では有機農業は推進できない

兵庫県環境創造型農業推進計画(第1期)の成果

(単位:千ha)

(単位:百ha)



◆環境創造型農業

■有機農業

環境創造型農業推進計画の目標達成のために、
環境創造型農業推進委員会会長の保田神戸大学名誉教授の発案で、
有機農業の実践者と理解者を養成する有機農業の学校・教室を開催した。
地道な活動によって確実に有機農業の裾野が広がった

県内各地の有機農業教室

おおや
有機農業の学校



楽農生活センター
有機農業塾



神河
有機農業教室



JAたじま
有機農業教室



座学と実習のプログラム→有機農業者と理解者が増加

平成23年度

定期教室2カ所



令和7年度

定期教室12カ所、定期クラブ3か所



オーガニックビレッジ
事業の推進力になる
人材を輩出

天地有機に基づいた有機農業技術

- 技術の柱→**完熟牛糞堆肥、保田ぼかし、草マルチ**
- ポイント→**土づくり、生物多様性保全、資源循環活用**
 - 土づくり→農業者が作るのは土
 - 生物多様性→多品目栽培、輪作・混作・草マルチ、緑肥
 - 地域資源→森林や水産資源の活用、土壌微生物による窒素固定
- 歴史・理念→**地球環境や次世代の命を守る社会的使命**
 - 有機農業の語源→天地有機
 - 誕生の契機→二度と再び母乳を汚すような食べ物は作らない決意
 - 食べ方が農業を守り、農村があって有機農業が成立する

有機農業の推進には理念や哲学が必要

**地球温暖化防止、生物多様性保全、社会的公正に
貢献する技術の習得と実践**

**有機農業実践者の社会的使命の醸成
理解者による買い支えの仕組み構築**

天地有機の理解

- 有機農業が必要とされる理由
 - 付加価値の高い農産物を作って儲けるとか、安全なものを食べ
て健康になるとか・**自分の利益を追求する農業ではない。**
 - **次世代が豊かに暮らせる環境や多様な命を守る農業**
- 天地有機に基づいた農業
 - 地球温暖化防止、生物多様性保全、社会的公正の構築

多くの受講生は「有機農業は難しい」「安全なものが食べたい」
「有機農業で儲けたい」「上手に野菜が作りたい」と、
有機農業の技術を学びたいと思っている。

※アンケート調査でも受講歴が短い人ほど技術を学びたいという要望が強い



**良い土が良い食べ物をつくり、良い食べ物が良い人をつくり
良い人が良い社会をつくる。**

**次世代のために、人々が幸せに暮らせる社会づくりに
貢献できる人を育てるところ**

保田ぼかしとは

- 神戸大学名誉教授・保田茂先生が開発
- 乳酸菌による低温発酵
- 作物に養分を供給

有機農業教室から派生した新たな組織

1	おおや有機 農業の学校	天地有機の会(井原)	有機稲作・安心ブランド取得
2		但馬有機の会(田村)	有機JAS野菜出荷
3		大谷校区協議会(池田)	学習会開催、直売所開設
4		西脇有機農業勉強会(田村)	学習会開催
5		Earth family農と食(田村・北山)	食育活動、学校給食有機野菜供給
6	楽農生活セン ター有機農業 塾	淡路有機農業講座(小峰)	R4から有機農業教室開催
7		あいたまちゃんクラブ(小峰・石田)	安心ブランド取得
8		有機農業塾生産者OB会(内藤)	安心ブランド取得
9		有機菜園塾 すぎなの子会(伊丹)	親子学習会開催
10		みのたに有機農業講座(大中)	親子学習会開催
11		5mの幸せ農園(西村・竹岡)	貸し農園学習会開催
12		BIO CREATORS有機農業スクール(大皿)	農業スクール開校
13		オーガニックアイランドを目指す生産者等研究会	学習会、講演会開催
14		みゅーずアグリ研究会	農園つき学習会
15	JAたじま有 機農業教室	おいしい野菜づくり研究会(能登・山崎)	学習グループ
16		豊岡オーガニックワークス(中井・立脇)	有機JAS野菜出荷

有機農業教室から派生した新たな組織

17	たつの有機 農業教室	大地と手の恵みプロジェクト(井上)	学習会開催
18		たつの農業クラブ(生駒)	安心ブランド取得、ビオマルシェ開設 学校給食食材出荷
19		農活クラブたかさご(宮下)	貸し農園付き学習会開催
20		しそ有機農業広め隊(井上)	R4から宍粟有機農業教室開校
21		やさい日和(嶋津、右田、岩本)	ビオマルシェ開設
22	神河有機 農業教室	神河有機農業教室生産者友の会(船田)	安心ブランド取得
23		有機野菜づくりを楽しむ会(吉岡)	学習グループ
24		ありがたいの種農育楽園(春下)	親子学習会開催
25	神付有機 農業教室	NPO法人命根の稲(久山)	稲作・環境学習開催、 有機JAS取得、親子農業講座開催
26		サンマルシェ(塚口)	ビオマルシェ開設
27		寺子屋(小泉)	学習会開催
28		NPO法人食と農の未来をつくるネットワーク	学習会開催
29	農大有機 農業講座	加古川有機農業講座(吉岡ノ)	学習会開催
30		北播磨子ども食と未来を考える会	食育学習会開催

NPO法人兵庫農漁村社会研究所 有機農業指導者認定式



有機農業指導者認定制度の概要

• 有機農業(HYS低温発酵資材活用)指導員設置要綱(11条)

第1条 特定非営利活動法人兵庫農漁村社会研究所（以下、「研究所」）は、「誰でも・どこでも・簡単・低コストで、美味しい農産物を栽培することのできる保田ぼかし（HYS低温発酵資材）を活用して、「天地有機」に基づいた有機農業を推進するため、「有機農業（HYS低温発酵資材活用）指導員」（以下、「指導員」）を認定するにあたり必要な事項を定める。

• 認定委員会で認定事務を実施

- 委員長:三浦研究主幹(農業政策)
- 委員:西村研究主幹(農業技術)、小寺研究主幹(協働活動)

• 2018年度から認定開始

- 2018年度:9名
- 2019年度:14名
- 2020年度:14名
- 2021年度:33名
- 2022年度:24名
- 2023年度:25名
- ※2023年度に連絡会設置(神河教室の船田代表が会長に就任)

有機農業教室の役割と必要性

- 有機農業の理解者や実践者の育成
 - 学びの場づくり
 - 県内各地に有機農業教室を拡大
 - 様々な組織と連携（行政、農業団体、生協、企業、市民活動組織、NPO等）
 - 社会構造のパラダイム変換には「知ること、学ぶこと、伝えること」が不可欠→社会変革を実行する人々が誕生
- 指導者の養成
 - 有機農業の裾野を広げる→技術の普及
 - 公的機関は機能不全→自ら指導体制をつくる
- 世論形成
 - 受講生が口コミで情報発信、受講生が後ろ姿を見せることで偏見が払しょく
 - 大自然の法則に基づいて有機農業をすれば農薬や化学肥料は不要
 - 美味しくて綺麗な農産物ができる
 - 既成概念の強い組織は外圧や外部評価に弱い。
 - 凄い農協、生協、有機農業が学べる農業大学校・・・

家庭菜園の有機化

公園の落ち葉は堆肥化されて花壇で使用される



フランスでは、「2022に家庭菜園(非農業ゾーン)での農薬の使用を禁止する」と発表。国や自治体が管理する公園や広場、草木、造園も対象。すでに40%の町で「ゼロ・フィット」という農薬使用禁止を実施している。



日本でも家庭菜園の有機化が進めば・・・→有機農業技術の世代継承や自給率アップが図れる→法律の整備、指導者の確保が必要